

別 海 町 議 会 会 議 録

第 4 号 (平成 22 年 3 月 17 日)

議事日程

日程第 1			会議録署名議員の指名
日程第 2			各常任委員会及び特別委員会付託議案審査結果報告 産業常任委員会 (議案第 39 号) 平成 22 年度別海町各会計予算審査特別委員会 (議案第 3 号、議案第 4 号、議案第 5 号、議案第 6 号、 議案第 7 号、議案第 8 号、議案第 9 号、議案第 10 号、議案第 11 号)
日程第 3			各議案・討論・採決
日程第 4	発議第 1 号		町長の専決事項の指定について
日程第 5	発議第 2 号		別海町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 6	発議第 3 号		別海町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について
日程第 7	発議第 4 号		「事業仕分け」による廃止等事項の見直しを求める意見書について
日程第 8	発議第 5 号		季節労働者の失業給付を 90 日分にし、季節労働者対策の強化を求める要望意見書について
日程第 9	発委第 1 号		道立衛生学院の存続を求める意見書について
日程第 10	発委第 2 号		経済・金融不安から国民生活を守り、社会的セーフティネットの拡充を求める意見書について
日程第 11			委員会開催の承認について

会議に付した事件

日程第 1			会議録署名議員の指名
日程第 2			各常任委員会及び特別委員会付託議案審査結果報告 産業常任委員会 (議案第 39 号) 平成 22 年度別海町各会計予算審査特別委員会 (議案第 3 号、議案第 4 号、議案第 5 号、議案第 6 号、 議案第 7 号、議案第 8 号、議案第 9 号、議案第 10 号、議案第 11 号)
日程第 3			各議案・討論・採決
日程第 4	発議第 1 号		町長の専決事項の指定について

日程第 5 発議第 2 号 別海町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について
 日程第 6 発議第 3 号 別海町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について
 日程第 7 発議第 4 号 「事業仕分け」による廃止等事項の見直しを求める意見書について
 日程第 8 発議第 5 号 季節労働者の失業給付を 90 日分にし、季節労働者対策の強化を求める要望意見書について
 日程第 9 発委第 1 号 道立衛生学院の存続を求める意見書について
 日程第 10 発委第 2 号 経済・金融不安から国民生活を守り、社会的セーフティネットの拡充を求める意見書について
 日程第 11 委員会開催の承認について

出席議員（17名）

1 番 西 原 浩	2 番 沓 澤 昌 廣
3 番 福 原 春 夫	4 番 安 部 政 博
5 番 瀧 川 榮 子	6 番 山 田 信
7 番 丹 羽 勝 夫	8 番 松 原 政 勝
9 番 戸 田 博 義	10 番 戸 田 憲 悦
11 番 中 村 忠 士	12 番 佐 藤 初 雄
13 番 池 田 幸 雄	15 番 山 崎 賢 一
16 番 佐々木 春 男	副議長 17 番 横 堀 昭 康
議 長 18 番 渡 邊 政 吉	

欠席議員（1名）

14 番 安 田 輝 男

出席説明員

町 長 水 沼 猛	副 町 長 磯 田 俊 夫
教 育 長 山 口 長 伸	総 務 部 長 小 守 正
福 祉 部 長 佐 竹 博	産 業 振 興 部 長 飯 島 孝 二
建 設 水 道 部 長 田 中 忠 敏	教 育 部 長 根 本 幸 三
会 計 管 理 者 秋 森 正 弘	病 院 事 務 長 真 籠 毅
福 祉 部 部 長 代 理 田 村 秀 男	産 業 振 興 部 部 長 代 理 中 村 保 彦
監 査 委 員 事 務 局 長 半 田 雅 代	福 祉 部 次 長 守 川 昇
農 委 事 務 局 長 千 葉 俊 文	総 務 課 長 松 本 光 永
総 務 課 参 事 大 島 登	総 合 政 策 課 長 有 田 博 喜
財 政 課 長 森 本 哲 男	税 務 課 長 干 場 俊 昭
福 祉 課 長 笠 原 悦 雄	福 祉 部 付 課 長 松 壽 和 広
町 民 課 長 斎 藤 英 彦	保 健 課 長 佐 藤 良 幸
福 祉 課 参 事 清 尾 昌 弘	特 老 施 設 長 村 井 勉
デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー 長 小 椋 忠 男	老 健 事 務 長 佐 々 木 諭
保 健 セ ン タ ー 長 田 村 秀 男	農 政 課 長 土 井 一 典
環 境 特 別 推 進 室 長 佐 藤 康 男	水 産 み ど り 課 長 藤 原 繁 光

商工観光課長 中 村 保 彦
事業課長 天 田 豊
下水道課長 光 延 章
病院事務課長 宮 部 正 好
学務課参事 今 井 道 春
社会体育課長
(総合スポーツセンター館長) 齊 藤 敏 幸

管 理 課 長 木 村 功 男
事業課技術長 山 岸 英 一
(建築担当・病院建設準備担当)
出 納 室 長 上 月 昭 彦
学 務 課 長 佐 藤 英 敏
生涯学習課長 中 川 浩

議会事務局出席職員

事 務 局 長 佐 藤 次 春

主 任 福 原 義 人

会議録署名議員

1 番 西 原 浩
3 番 福 原 春 夫

2 番 沓 澤 昌 廣

開議 午前 10 時 00 分

開議宣告

議長（渡邊政吉君） ただいまから、第 8 日目の会議を開きます。

ただいま出席している議員は 17 名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

なお、欠席議員は 14 番安田議員でございます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第 1 会議録署名議員の指名

議長（渡邊政吉君） 日程第 1 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第 119 条の規定により、議長において指名いたします。

1 番西原議員、2 番沓澤議員、3 番福原議員、以上 3 名を指名いたします。

日程第 2 各常任委員会及び特別委員会付託議案審査結果報告

議長（渡邊政吉君） 日程第 2 各常任委員会及び特別委員会に付託いたしました議案の審査結果の報告を議題といたします。

産業常任委員会に付託いたしました議案第 39 号について報告を求めます。

産業常任委員長。

産業常任委員長（戸田憲悦君） 平成 22 年 3 月 11 日開催の本会議において産業常任委員会に付託のありました議案第 39 号について、審査の経過と結果について報告いたします。

平成 22 年 3 月 11 日、全委員出席のもと、関係部課長等の出席を求め、委員会を開催いたしました。

議案第 39 号別海町小作料協議会条例を廃止する条例の制定についてであります。

本条例の廃止については、平成 21 年 12 月 15 日に改正農地法が施行され、標準小作料制度が廃止されたことに伴い、条例を廃止するものであります。なお、この条例は公布の日から施行するというものであります。

標準小作料制度については、昭和 45 年、農地法改正により、統制小作料制度にかわって設けられた制度であり、原則的には当事者（貸し手・借り手農家）が小作料の額を決定するということから、小作料契約の目安として農業委員会が設定できるものであります。

また、本町の小作料協議会は昭和 46 年 6 月に設置され、貸し手・借り手農家や学識経験者 5 人を含む 15 人で構成され、農業情勢などを勘案しながら必要に応じて標準小作料を改訂しており、本町の現行の賃借料水準を決定しておりました。標準小作料制度が廃止されましたが、今後は、これまでの小作料の上限額 4 万 1,000 円ヘクタール当たりを、地域が遵守すべき賃借料の上限として位置づけ、経済事情や農業環境等を見きわめながら、適切に農地流動化事業に取り組んでいくということでした。

当委員会において慎重な審査の結果、適正であると判断し、全員の賛成をもって原案のとおり可決、決定いたしました。

以上、当委員会に付託されました議案第 39 号の審査の経過と結果について、報告を終わります。

議長（渡邊政吉君） 委員長報告が終わりましたので、委員長に対する質疑をお受けい

たします。質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

お諮りいたします。

平成２２年度別海町各会計予算審査特別委員会に付託し審査されました議案第３号から議案第１１号までの９件につきましては、全員をもって構成した予算審査特別委員会ですので、委員長の報告は省略いたしたいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、委員長の報告は、省略することに決定いたしました。

日程第３ 各議案・討論・採決

議長（渡邊政吉君） 日程第３ 各議案の討論・採決を行います。

議案第３９号の討論に入ります。

別海町小作料協議会条例を廃止する条例の制定についてであります。

討論ございますか。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第３９号は、原案のとおり可決されました。

平成２２年度各会計予算の採決に入る前に、お諮りいたします。

本件は、全議員で構成する予算審査特別委員会で、質疑、討論、採決が行われております。つきましては、議会運営委員会の協議に基づき、討論は省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、平成２２年度各会計予算の討論は省略することに決定いたしました。

それでは、これから、平成２２年度各会計予算の採決に入ります。

議案第３号の採決をいたします。平成２２年度別海町一般会計予算でございます。

予算審査特別委員会では反対討論がされておりますので、本件については起立により採決をいたします。

本案を、原案のとおり決定することに賛成する議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（渡邊政吉君） 起立多数であります。

したがって、議案第３号は、原案のとおり可決されました。

議案第４号の採決をいたします。平成２２年度別海町国民健康保険特別会計予算であります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第４号は、原案のとおり可決されました。

議案第５号の採決をいたします。平成２２年度別海町老人保健特別会計予算であります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第５号は、原案のとおり可決されました。

議案第６号の採決をいたします。平成２２年度別海町下水道事業特別会計予算であります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第６号は、原案のとおり可決されました。

議案第７号の採決をいたします。平成２２年度別海町介護サービス事業特別会計予算であります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第７号は、原案のとおり可決されました。

議案第８号の採決をいたします。平成２２年度別海町介護保険特別会計予算であります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第８号は、原案のとおり可決されました。

議案第９号の採決をいたします。平成２２年度別海町後期高齢者医療特別会計予算であります。

予算審査特別委員会では反対討論がされておりますので、本件については起立により採決いたします。

本案を、原案のとおり決定することに賛成する議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（渡邊政吉君） 起立多数であります。

したがって、議案第９号は、原案のとおり可決されました。

議案第１０号の採決をいたします。平成２２年度町立別海病院事業会計予算であります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第１０号は、原案のとおり可決されました。

議案第１１号の採決をいたします。平成２２年度別海町水道事業会計予算であります。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、議案第11号は、原案のとおり可決されました。

ここで、申し上げます。ただいま、議案第3号から議案第11号までの平成22年度別海町各会計予算について、すべて決定をいたしましたので、平成22年度別海町各会計予算審査特別委員会は、ただいまをもって解散といたします。戸田委員長初め委員の皆様御苦労さまでございました。

日程第4 発議第1号

議長(渡邊政吉君) 日程第4 発議第1号町長の専決事項の指定についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

13番池田議員。

13番(池田幸雄君) 発議第1号町長の専決事項の指定について提案理由及び内容について御説明申し上げます。

現在、当議会において議会活動の活性化等に関する協議、検討を進めております。そうした中で、軽微な契約変更について、これまでは、緊急を要することから臨時会を開催し対応してまいりましたが、議会運営及び行政執行に支障を来することが懸念されておりました。

このたび、平成22年2月19日付で、町長から地方自治法第180条第1項の規定による町長の専決事項の指定議決について依頼を受け、議会運営委員会並びに全員協議会等で慎重に協議した結果、補助金の変更申請や起債許可の決定など、時間的制約等があり、議会運営や行政執行の迅速かつ合理性を図る観点からも、地方自治法第180条第1項の議会の委任による専決処分として指定をしたものであります。

内容については、議案の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

発議第1号町長の専決事項の指定について。

上記の議案を別紙のとおり、地方自治法第112条及び別海町議会会議規則第14条第2項の規定により提出します。

平成22年3月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員池田幸雄。

賛成者、同佐々木春男、同横堀昭康、同戸田憲悦、同安部政博。

町長の専決事項の指定について。

別海町議会の権限に属する事項中、次の事項は地方自治法第180条第1項の規定により、町長の専決処分事項に指定する。

地方自治法第96条第1項第5号の規定により、議会の議決を経た工事または製造の請負契約にかかわる当該契約金金額の100分の5を超えない範囲、当該金額が500万円を超える場合にあっては500万円以内で変更契約を締結すること。

附則として、この規定は、平成22年4月1日から適用する。

以上であります。御審議の上、速やかに御賛同を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

議長(渡邊政吉君) 発議第1号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

す。

質疑に入ります。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、発議第1号は、原案のとおり可決されました。

日程第5 発議第2号及び日程第6 発議第3号

議長(渡邊政吉君) 日程第5 発議第2号別海町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について、日程第6 発議第3号別海町議会会議規則の一部を改正する規則の制定についての2件については関連がありますので、一括議題といたします。

内容について説明を求めます。

16番佐々木議員。

16番(佐々木春夫君) それでは、発議第2号別海町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について及び発議第3号別海町議会会議規則の一部を改正する規則の制定についての提案理由及び内容について、関連がありますので一括して御説明申し上げます。

現在、当議会において、議会活動の活性化等改革に関し検討・協議がされております。地方議会は、住民の付託にこたえ、幅広い活動を行っておりますが、地方分権改革の進展により、地方公共団体の権限や機能が拡大する中で、地方議会が果たすべき役割と責任はますます重要になってきております。これまで以上にわかりやすい議会活動に積極的に取り組むことが必要であります。議論の場である議会において、論点・争点を明確にし、また、政策決定過程の説明責任を町側に課することは、町側への問いに対する責任や、今まで以上に質の高い議論を展開することが求められております。

これらを踏まえ、議会運営委員会及び全員協議会等では、当議会の実情と課題を検証しながら慎重に協議・検討した結果、委員会及び本会議等において、町長等の反問権を導入すべく、本議案を提案することになったものであります。

なお、本件に関する協議の中で、議会活動の活性化等に関する事項について、引き続き議会全体で検討・協議していくこととして確認されておりますことを申し添えます。

なお、説明資料として新旧対照表を配付しておりますので、後ほど御参照ください。

内容説明につきましては、議案の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

初めに、発議第2号別海町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について。

上記の議案を別紙のとおり、地方自治法第112条及び別海町議会会議規則第14条第2項の規定により提出します。

平成22年3月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員佐々木春男。

賛成者、同池田幸雄、同横堀昭康、同戸田憲悦、同安部政博。

別海町議会委員会条例の一部を改正する条例。

別海町議会委員会条例（昭和62年別海町条例第4号）の一部を次のように改正する。

第19条の次に、次の1条を加える。

反問。

第19条の2、委員会への出席を要請された町長等は、議員の質問に対し、委員長の許可を得て反問することができる。

附則として、この条例は、22年4月1日から施行する。

次に、発議第3号別海町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第14条第2項の規定により提出します。

平成22年3月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員佐々木春男。

賛成者、同池田幸雄、同横堀昭康、同戸田憲悦、同安部政博。

別海町議会会議規則の一部を改正する規則。

別海町議会会議規則（平成3年別海町議会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第51条の次に、次の1条を加える。

町長の反問。

第51条の2、議長から会議への出席を要請された町長等は、議員の質問に対して議長の許可を得て反問することができる。

附則として、この規則は、22年4月1日から施行する。

以上であります。

御審議の上、速やかに御賛同、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、読み違い等ございましたら、お手元に配付のとおりでございますので、一言申し添えておきます。

議長（渡邊政吉君） 発議第2号及び発議第3号の2件について内容説明が終わりましたので、これから一括質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、発議第2号別海町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定についての討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発議第2号は、原案のとおり可決されました。

これから、発議第3号別海町議会会議規則の一部を改正する規則の制定についての討論に入ります。ございますか。

(「なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(渡邊政吉君) 御異議なしと認めます。

したがって、発議第3号は、原案のとおり可決されました。

日程第7 発議第4号

議長(渡邊政吉君) 日程第7 発議第4号「事業仕分け」による廃止等事業の見直しを求める意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

3番福原議員。

3番(福原春夫君) 「事業仕分け」による廃止等事業の見直しを求める意見書の内容について御説明を申し上げます。

昨年、平成22年度予算概算要求事業について、政府による事業仕分け第1弾が行われ、本町はもとより、北海道など地方自治体が展開すべき多くの事業が廃止・縮小となりました。このことは、市町村が取り組む地域づくり、町づくりに多大な影響を及ぼすばかりか、地域の未来に禍根を残しかねないことも危惧されます。議員各位も御承知のとおり、間もなく事業仕分け第2弾が開始されようとしており、今回は法人等の見直しが主になるようですが、第1弾同様に地方自治体に大きな影響を及ぼすことも危惧されます。

このような状況も踏まえ、本意見書を提案することになったものです。

内容説明につきましては、意見書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

発議第4号「事業仕分け」による廃止等事業の見直しを求める意見書。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第14条第1項及び第2項の規定により提出します。

平成22年3月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員福原春夫。

賛成者、同戸田憲悦、同佐々木春男、同中村忠士、同山田信、同西原浩。

「事業仕分け」による廃止等事業の見直しを求める意見書。

政府による平成22年度予算概算要求事業についての「事業仕分け」によって、農道整備事業、森林・林業・木材産業づくり交付金などの事業が廃止され、農業共済掛金国庫負担金、医師確保、救急・周産期対策の補助金等、シルバー人材センター援助事業、公立学校施設整備事業などの予算を縮減するとしており、さらには、北海道総合開発推進調査費、まちづくり交付金、下水道事業などについては自治体等の判断に任せるとして、事業の存廃、財源の取り扱いが不透明のままである。さらには、今後、第2次事業仕分けが行われる予定であり、第1次と同様な事業の廃止等が行われた場合、本道の農林水産業、商工業等に甚大な影響を及ぼすとともに、市町村が取り組む地域づくりを根底から覆しかねないことは明らかである。

よって、国においては地域の未来に禍根を残すことのないよう、都道府県、市町村や専門分野の意見を聴取し、地域の実情を踏まえた上で、「事業仕分け」によって廃止等され

た事業について見直しをすることを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年3月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書提出先、衆参両議院議長、内閣総理大臣、国家戦略担当大臣、総務大臣、外務大臣、財務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、行政刷新担当大臣。

以上であります。

審議の上、速やかに御決定賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発議第4号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発議第4号は、原案のとおり可決されました。

日程第8 発議第5号

議長（渡邊政吉君） 日程第8 発議第5号季節労働者の失業給付を90日分にし、季節労働者対策の強化を求める要望意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

11番中村議員。

11番（中村忠士君） 季節労働者の失業給付を90日分にし、季節労働者対策の強化を求める要望意見書の内容について御説明申し上げます。

本年1月、雇用保険等の一部を改正する法律案要綱が閣議決定され、通常国会に提出されました。本法案では、非正規労働者には雇用保険が適用され、90日分の失業給付が受けられますが、季節的に雇用される短期雇用特例被保険者には40日分の特例一時金とされています。北海道の多くの季節労働者は冬期間の失業を余儀なくされ、特例一時金で厳寒の冬を越さなくてはなりませんし、国の雇用促進制度も十分な効果が上がっていない状況にあります。本町はもとより、北海道で悪化した経済情勢や自治体財政の厳しいことにより、公共事業の減少が続き、雇用情勢は深刻さを増しています。このような状況を踏まえ、本意見書を提案することになったものです。

内容説明につきましては、意見書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

発議第5号季節労働者の失業給付を90日分にし、季節労働者対策の強化を求める要望意見書。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第14条第1項及び第2項の規定によ

り提出します。

平成22年3月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会議員中村忠士。

賛成者、同戸田憲悦、同福原春夫、同佐々木春男、同山田信、同西原浩。

季節労働者の失業給付を90日分にし、季節労働者対策の強化を求める要望意見書。

政府は通常国会に雇用保険法等の改正案を提出し、非正規労働者への適用の拡大、雇用保険財政への国庫負担を本則どおり25%とすることなどが決定されている。しかし、今回の法改正で季節労働者は対象とされていない。

北海道には約10万人の季節労働者があり、その6割は建設関係の仕事についている。本道の季節労働者は、厳しい自然環境などにより冬期間の失業を余儀なくされているが、現行の雇用保険制度のもとでは、40日分の特例一時金約20万円で厳冬の3から4カ月を越さなければならない。非正規労働者が企業の都合で解雇されるのと同じように、季節労働が冬に失業するのは、働きたくても仕事がないためである。国の通年雇用促進事業は所得保障にかかわるものが一切認められていないため、十分な効果が上がっていない。

また、北海道においても、急速に悪化した経済情勢のもとで民間工事が落ち込み、さらには自治体財政の困難の増大によって公共事業の減少が続くなど、雇用情勢は深刻さを増している。通年雇用どころか、年間を通じた失業が季節労働者に襲いかかっている。こうした状況から、政府においては季節労働者対策について、以下の措置を講ずるよう強く要望する。

記。

1、雇用保険法を改正して、季節労働者の失業給付を90日分とすること。

2、国の通年雇用促進支援事業を抜本的に改善・拡充すること。

3、国として、雇用効果の高い生活・福祉関連の公共事業の拡大を図って、地元の中小建設業者の仕事を確保するとともに、冬期間の就労機会を拡大すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年3月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書提出先、衆参両議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、国土交通大臣。

以上であります。

御審議の上、議員各位の御賛同を賜り、速やかに御決定賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発議第5号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発議第５号は、原案のとおり可決されました。

日程第９ 発委第１号

議長（渡邊政吉君） 日程第９ 発委第１号道立衛生学院の存続を求める意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

文教厚生常任委員長。

文教厚生常任委員長（安部政博君） 道立衛生学院の存続を求める意見書の内容について御説明申し上げます。

本件は、平成２１年１０月３０日付で道東勤医協労働組合執行委員長山本隆幸氏から要請があり、文教厚生常任委員会で協議、検討したものであります。

現在、本町はもとより、北海道内の自治体病院では、医師、看護師等の医療従事者不足が喫緊の課題となっています。このことは、地域住民の生命と健康を守り、安全で安心な医療体制実現に向け、大きな障害となっています。

本道立学院は、准看護師が正看護師の資格を取得できる進学コースを初めとして、看護職員養成には欠かせない学び舎です。学費面においても、格段に安く設定されていることを踏まえ、経済的理由から多くの看護職員等を目指す若者が、道を断念することを防止してきており、大きな責務を果たしてきました。現在、道は本学院を存続する方針に変更したと聞いておりますが、万が一、廃止となった場合には、本町はもとより、北海道の地域医療の崩壊にもつながりかねないと考えます。

このような状況を踏まえ、慎重に協議、検討した結果、委員全員の賛成をもって本意見書を提出することになったものです。

なお、本意見書については、北海道内２９市町村で提出されていることを申し添えます。

内容説明につきましては、意見書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

発委第１号道立衛生学院の存続を求める意見書。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第１４条第３項の規定により提出します。

平成２２年３月１７日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会文教厚生常任委員会委員長安部政博。

道立衛生学院の存続を求める意見書。

看護師、保健師、助産師等を養成する道立衛生学院廃止の方針が打ち出されている。医師、看護師不足、地域医療の崩壊が社会問題となっている今、住民の生命と健康を守るべき地方自治体が、その責任において医療従事者の確保、安全と安心の医療実現のために力を尽くさなければならないときである。

道立衛生学院廃止案は、まさに道が果たすべき役割と責任を全く放棄し、地域医療の崩壊を加速させるものである。道立衛生学院は、准看護師が正看護師の資格を取る、いわゆる進学コースを初め、保健師養成、助産師養成など、看護職員養成に欠かすことのできな

い重要な施設である。衛生学院の廃止は、道内の看護職員確保に多大な影響を与えることは明らかである。

また、道立衛生学院の入学料、授業料など学費は、他の養成所と比べて格段に安く設定され、経済的理由で進学の道を断念することを防止してきている。現に、道立だから頑張れたとの声は少なくありません。そういう意味からも道立衛生学院の役割は大きいものである。

北海道第6次看護職員需要見直し（平成18年策定）は、初年度から供給見込み数に大幅な狂いが生じているが、道はその見直しを見直そうとしません。また、医師・看護師が都市に集中する中、地方自治体ではもっと深刻な状況にあり、安心して産み育てられる北海道をつくるためには、民間任せの施策だけでは、北海道全体、とりわけ地方の医療不安の解消につながるどころか、崩壊を加速させるだけである。

今、医師、看護師の過労死が相次ぎ、まさに医師、看護師の大幅増員が待ったなしの状況である。深刻な医療、看護現場の実態改善、崩壊寸前と言われる地域医療を再生するために、医師、看護職員確保対策の強化を財政措置も含めて、道が率先して行うべき時期である。

以上の趣旨から、下記の点について要望します。

記。

1、北海道内の看護職員等医療従事者確保に寄与している道立衛生学院を存続させること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年3月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書提出先、北海道知事。

以上であります。

御審議の上、速やかに御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発委第1号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発委第1号は、原案のとおり可決されました。

日程第10 発委第2号

議長（渡邊政吉君） 日程第10 発委第2号経済・金融不安から国民生活を守り、社会的セーフティネットの拡充を求める意見書についてを議題といたします。

内容について説明を求めます。

産業常任委員長。

産業常任委員長（戸田憲悦君） 経済・金融不安から国民生活を守り、社会的セーフティネットの拡充を求める意見書の提案説明を申し上げます。

本件は、平成21年12月29日付で根室地方議員連絡協議会会長から要請があり、産業常任委員会で協議、検討したものであります。

昨年11月に、日本経済がデフレ状態にあると政府が発表いたしました。その後も円高などの影響で回復の兆しなく、住民生活、雇用情勢への悪影響とつながり、依然危機的な状況にあります。

このような中、急速に悪化する雇用情勢に対応すべく、財政面を含めた支援体制の充実、強化が必要不可欠な状況です。生活補助受給者数も増加傾向にあることなどを踏まえ、総合的なセーフティネット体系の整備を確立し、中小企業対策などの経済政策を的確、計画的に行い、町民はもとより、国民が健康で文化的な最低限の生活が営めるようにしなければなりません。

このような状況を踏まえ、慎重に協議、検討した結果、委員全員の賛成をもって本意見書を提案することになったものです。

内容説明につきましては、意見書の朗読をもって説明にかえさせていただきます。

発委第2号経済・金融不安から国民生活を守り、社会的セーフティネットの拡充を求める意見書。

上記の議案を別紙のとおり、別海町議会会議規則第14条第3項の規定により提出いたします。

平成22年3月17日。

別海町議会議長渡邊政吉殿。

提出者、別海町議会産業常任委員会委員長戸田憲悦。

経済・金融不安から国民生活を守り、社会的セーフティネットの拡充を求める意見書。

政府は、昨年11月20日に、日本経済がデフレ状態にあると3年5カ月ぶりに宣言した。加えて、急激な円高も進行した結果、輸入品価格が下がり、デフレに拍車がかかる事態も想定される。

また、日本経済を下支えする中小製造業などが円高の影響で生産を縮小せざるを得なくなり、経済情勢の悪化は、国民生活、雇用情勢への悪影響とつながり、日本経済は危機的な状況に面している。

こうした中、急速に悪化する雇用情勢に対応し、住居を失った離職者を支援する新たなセーフティネットの構築に向けた予算措置、雇用と住居を失った者に対する総合支援策が政府の経済危機対策により実施されているが、訓練・生活支援給付、住宅手当、就職安定資金融資、生活福祉資金の申請窓口の一元化など、支援体制の充実、強化を図る必要がある。

また、雇用情勢に改善の兆しが見えない中、生活保護受給者数は急増し、政府の公表では約6人に1人が貧困であることが明らかになっている。とりわけ、子供の貧困の解決が求められている。

よって、国においては、中小企業対策などの経済政策を的確かつ計画的に実施し、雇用を確保するとともに、国民が日本国憲法第25条で規定された健康で文化的な最低限の生活を営むことができるよう、総合的なセーフティネット体系の整備に向け、次の事項につ

いて強く要望する。

記。

1、急激な円高による影響を緩和する中小企業金融対策等を充実、強化すること。

2、雇用調整助成金制度の拡充などにより雇用の維持、確保を図るとともに、雇用と住居を失った者に対する総合支援策をワンストップ・サービスとして迅速かつ円滑に実施するため、必要な事務の改善と、それに伴う財政措置を行い、恒久的な制度とすること。

3、生活保護制度を円滑に実施できるよう、国の責任において運用の改善、実施体制の確保及び確実な財政措置を行うこと。

4、デフレ脱却と経済の安定成長を実現するマクロ経済政策を早急に策定すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年3月17日。

北海道野付郡別海町議会議長渡邊政吉。

意見書の提出先は、衆参両議院議長、内閣総理大臣、国家戦略担当大臣、総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、内閣官房長官、金融担当大臣。

以上であります。

御審議の上、速やかに御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

議長（渡邊政吉君） 発委第2号の内容説明が終わりましたので、本件の質疑を行います。

質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 質疑を終わります。

これから、討論に入ります。

（「なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 討論を終わります。

これから、採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、発委第2号は、原案のとおり可決されました。

日程第11 委員会開催の承認について

議長（渡邊政吉君） 日程第11 委員会開催の承認についてを議題といたします。

内容については、お手元に配付のとおりであります。

お諮りいたします。

委員会開催については、委員長申し出のとおり承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（渡邊政吉君） 御異議なしと認めます。

したがって、委員長申し出のとおり承認することに決定いたしました。

閉会宣告

議長（渡邊政吉君） 以上をもって、本定例会に付議された案件の審議はすべて終了いたしました。

これにて、平成２２年第１回別海町議会定例会を閉会いたします。

閉会 午前１０時５１分

町長あいさつ

議長（渡邊政吉君） 町長、あいさつ。

町長（水沼 猛君） 定例会の閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

３月１０日から本日まで８日間にわたる定例会が終了いたしました。議員の皆様方におかれましては、提出議案の４７件につきまして、それぞれ御決定を賜りましたことを心から御礼を申し上げる次第であります。

提出議案のうち、議案第３号から議案第１１号までの９件につきましては、平成２２年度の各会計等当初予算でございますが、特別委員会の設置により審査をしていただきました。この間、戸田憲悦委員長、佐藤初雄副委員長を初め委員の皆様におかれましては、終始慎重な審査とともに、多くの御意見をいただいたところでございます。委員会におきましていただきました貴重な御意見等につきましては、来年度の予算執行に反映させていただきながら、第６次総合計画の２年次目をしっかりと歩んでまいりたいと考えております。また、議会の権限に属するもののうち、専決処分できる事項についても指定をいただき、重ねて御礼を申し上げる次第でございます。

ここで、２点ほど報告をさせていただきたいと思います。

１点目でございますが、学校の跡地利用の件でございます。

旧光進小中学校の跡地利用の件につきましては、広報べつかいや町のホームページを通じまして、昨年１２月１日から１２月３０日の間で公募をしてみいりましたが、あいにく具体的な公募はございませんでした。今後も再度公募をするなど、新たな活用方法等の検討を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

また、旧豊原、美原小学校の跡地利用につきましては、条例改正を行い、教育委員会として教育施設、図書館の倉庫や社会体育施設といたしまして再利用が始まることになりました。こちらの施設につきましても、地域の皆様方の有効な活用を期待をいたしているところでございます。

２点目につきましては、来年度の組織、機構についてでございますが、行政改革の一環といたしまして、４月１日から教育委員会の生涯学習課と社会体育課を再編をいたしたいと考えております。

また、西春別と尾岱沼診療所の事務を民間委託、これを予定をいたしております。このほか、議会事務局長、農業委員会事務局長のポスト、これを部長職とするとともに、部長代理の職を廃止をいたしまして、各部に必要な応じて次長職を配置するなど、団塊の世代の退職に対応した新たな組織、機構といたしたいと考えておりますので、御理解を賜りたいと思っております。

報告はこの２点でございますが、ことしも早いものでありまして、あと半月で４月１日の新しい年度を迎えることになります。平成２２年度は、議員の皆様と私にとりましても任期最後の１年となりますが、今後とも適切な行政執行を進めてまいりますので、今まで以上の御理解と御協力を賜りますようお願いを申し上げまして、３月定例会の閉会に当たってのあいさつといたします。

議員各位の皆様、大変ありがとうございました。

退職する幹部職員の紹介

議長（渡邊政吉君）　ここで、申し上げます。

本年３月３１日付で退職されます幹部職員の紹介の申し出がありますので、この席で受けたいと思います。

それでは、副町長から紹介があります。

副町長（磯田俊夫君）　大変お疲れのところ、貴重な時間を割いていただきまして大変ありがとうございます。

本年３月３１日付をもって退職いたします幹部職員を御紹介をさせていただきたいと思います。

ことし定年退職する職員は、一般職、専門職などを合わせまして１８名でございます。ここでは、代表いたしまして、次長職以上の幹部職員を御紹介させていただきたいと思います。

皆様方のほうから向かって左手のほうから御紹介させていただきたいと思います。

会計管理者の秋森管理者でございます。それから福祉部長の佐竹でございます。それから農業委員会の事務局長の千葉でございます。それから、産業振興部長代理の中村でございます。図書館館長の大屋でございます。それから、最後は別海消防署の次長の吉崎でございます。

それでは、順不同でございますけれども、左側から１人ずつ簡単に皆さん方にごあいさつをさせていただきたいと思います。

（会計管理者秋森正弘、あいさつ）（拍手）

（福祉部長佐竹　博、あいさつ）（拍手）

（農委事務局長千葉俊文、あいさつ）（拍手）

（産業振興部長代理中村保彦、あいさつ）（拍手）

（図書館館長大屋利和、あいさつ）（拍手）

（別海消防署次長吉崎保夫、あいさつ）（拍手）

副町長（磯田俊夫君）　以上で終わらせていただきます。大変ありがとうございました。

議長（渡邊政吉君）　以上をもって、退職者の紹介を終わらせていただきます。

以上で、本会議をすべて終了いたしたいと思います。

管理職、議員の皆様、長い間大変御苦労さまでございました。

上記は、地方自治法第 1 2 3 条の規定により会議の次第を記載したものである。

平成 年 月 日

署 名 者

別海町議会議長

議 員

議 員

議 員